

# 事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.23)No. 1070-3 (H.24)No. 1070-3

事務事業名		医療体制推進費(医療体制推進寄附講座開設寄附金関係)			
担当部局名		担当室名		室長名	連絡先
健康福祉部		地域医療体制担当/地域医療室		岩名静枝/富岡憲子	63-7579
新・継	事業期間			根拠法令等	
継続	平成	22年度~	平成	年度	寄附講座の設置に関する協定等

事業区分 (複数選択可)	ソフト施策事業
	扶助費
	補助金交付金
	投資事業
	施設等維持管理
	内部管理事務
	特別及び企業会計、組合

## 1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	1	互いに認めあい支えあう、健康で安心できる暮らし
	基本政策	4	健康長寿のまちづくり
	施策	2	地域医療
	小施策	2	救急医療体制の充実
重点施策コード 1-1.安心できる医療体制の整備(地域医療体制の整備)			

## 2. 予算区分

会計区分		事業コード	250502
一般会計		(中事業名)	予算書事業名
款	衛生費	保健衛生総務費	
項	保健衛生費	(小事業名)	
目	保健衛生総務費	医療体制推進費	

## 3. 事務事業の概要

事業概要	
<p>地域医療再生基金を活用し、関係大学に対して寄附講座を設置し、専門性の高い医療の研究を進めるとともに、名張市立病院への医師派遣により、伊賀地域における二次救急医療の確保を図る。 平成22~25年度まで事業費の1/2は地域医療再生基金より補助がある。(但し三重大学分は全額補助)</p>	

めざす効果(事業目的)	
<p>それぞれの研究を通じて質の高い医療を提供するとともに、伊賀地域における二次救急医療の確保を図る。</p>	

## 4. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	平成23年度 (実績・決算見込)		平成24年度 (計画・作成時予算額)		現在の実施手法(複数選択可)		
	[事業内容(事業量)・事業費]		[事業内容(事業量)・事業費]				
主な事業の実績・計画	総事業費46,000千円 1.寄附講座設置事業 関西医科大学他34,000千円 2.委託事業 奈良県立医科大学12,000千円		総事業費 71,000千円 1.寄附講座設置事業 関西医科大学他59,000千円 2.委託事業 奈良県立医科大学12,000千円		市が直接実施 業務委託(全部・一部)により実施 指定管理 補助金・交付金 その他 ( )		
直接事業費	46,000千円	71,000千円	75,500千円	75,500千円	75,500千円	75,500千円	
財源内訳 (千円)	国庫支出金						
	県支出金	12,000	37,000	41,500			
	地方債						
	その他( )						
一般財源	(0)	34,000	34,000	34,000	75,500	75,500	
人工数	職員	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	
	臨時職員等						
概算人件費	(0千円)	730千円	730千円	730千円	730千円	730千円	
+ 総事業費	(0千円)	46,730千円	71,730千円	76,230千円	76,230千円	76,230千円	

概算人件費 は、人工数に便宜上、1人当たり年間平均人件費(市一般会計全体、共済費を含む額)を乗じた数値を記載しています。  
 平成23年度の( )内の数値は、22年度からの繰越事業費で、外数で記載しています。  
 特別会計及び組合会計の一般財源欄には当該会計上の一般財源を、企業会計の一般財源欄には一般会計繰入金を記載しています。  
 平成25年度以降の計画(内容及び総事業費)については、予定であり確定したものではありません。

### 5. 主な事業指標と成果

事業指標名		単位	H.20 (現状値)	H.21	H.22	H.23	H.24
活動指標	目標	寄附講座設置数	-	-	-	3	3
	実績		-	-	2	2	3
成果指標	目標	地域医療体制に満足している市民の割合	-	-	-	-	31.0
	実績		29.4	32.5	33.6	41.2	
成果指標	目標	かかりつけ医を決めている人の割合	-	-	-	-	80.0
	実績		77.4	78.0	79.9	75.3	

### 6. 考察(前年度の評価)及び今後の対応方針

考察(前年度の評価-各指標等)	今後の対応方針
平成23年度の寄附講座設置数は、平成22年度に引き続き、奈良県立医科大学、関西医科大学の2件であり、新たな目標であった三重大学については、23年度末に協定書の調印を行い、平成24年4月から常勤医師1名の派遣に繋がった。	寄附講座等により名張市立病院の医師が徐々に増えつつあり、伊賀地域の二次救急医療体制の危機が若干緩和されたが、まだまだ不十分なため、引き続き寄附講座により関係大学からの医師派遣を依頼したい。

### 7. 事業を取り巻く環境

事業環境の今後の変化 (対象者やニーズ、法令・制度の改正等)	市民・議会・事業関係者・団体等からのこれまでの主な意見
医師確保のため、地域医療再生基金事業の一環として実施するが、同事業は平成25年度までであり、伊賀地域の二次救急医療体制の充実を図るためにも、この事業を積極的に推進する必要がある。また、補助がなくなる26年度以降も継続して実施する必要がある。	伊賀地域内で救急患者を受け入れられる体制を早急に確保するためには、医師確保が最重要課題である。

### 8. 担当室による点検 [事務事業をより良く(最適化)するために]

点検項目	具体的内容(選択肢 ・ の場合) (4)は の場合
(1) 現在の事業費内で、更に効果を高める方法や工夫等を図ることができないか [選択肢] できる 検討余地がある できない できない	
(2) 効果・効率性の観点から他の事務事業と連携・統合を図ることができないか [選択肢] できる 検討余地がある できない できない	
(3) 新たな財源確保や受益者負担の見直し等を行うことができないか [選択肢] できる 検討余地がある できない できない	
(4) 事業に関係する地域ビジョン(地区別計画含む)はあるか [選択肢] ある ない ある	桔梗が丘地区基本施策「生きがい・健康」小施策「医療機関の確保」市立病院の機能強化
(5) 事業に地域ビジョンの内容を反映しているか(反映するか) [選択肢] 反映済み 反映を予定 反映予定なし(該当しない) 反映済み	市立病院における常勤医師が増員となり、二次救急医療の受入体制が強化された。
(6) その他、有効性や効率性を高めるための工夫や取組を図ることができないか [選択肢] できる 検討余地がある できない できない	

### 9. 今後の方向性(担当室による内部評価)

[選択肢] 継続(事務改善) 継続(現行) 継続(拡大) 休止・廃止検討 事業完了(完了予定含む) 継続(現行)	特記事項
「継続(現行)」の場合のみ理由を記載 平成25年度まで地域医療再生基金を活用できることもあり、医師確保が伊賀地域の二次救急医療体制整備のための最重要課題であるため、事業を現行のまま継続する。補助がなくなる26年度以降も継続したい。	